

タガメ (学名: *Kirkaldyia deyrolli*)

(写真・文 太田祥作)

【カメムシ目コオイムシ科】



▲ タガメの成虫 (9月撮影)



▲ 水面下の幼虫。前脚にはすでに立派なカマを備えている (7月撮影)

タガメは日本最大の飛翔する水生昆虫として有名です。鎌状の前脚はエサを捕らえるために大きく発達しており、これでフナやドジョウ、カエル、ときにはヘビや小さなカメすらも仕留めることができます。タガメは捕らえたエサに針状の口を突き刺し、消化液を注入して食べてしまいます。

タガメは、オスが卵を世話することで知られています。交尾後、メスは水上に突き出した植物によじ登って卵を産みつけると、あとはどこかへ行ってしまいます。一方、オスは、卵が乾かないよう水を与えたり、上から覆いかぶさって卵を保護したりと、卵がふ化するまで甲斐甲斐しく面倒を見ます。タガメの寿命は一年で、オスのこうした行動は梅雨時に観察できます。幼虫は秋のはじめごろに羽化して成虫となり、そのまま冬を越します。



▲ 卵を守るオス (6月撮影)

タガメは全国的にも数が少なく、珍しい昆虫です。減少の理由には、圃場整備や農薬散布など、近代的な稲作農法への変化や、ブラックバスのような外来種の増加が関係していると言われています。

只見町のタガメは2022年に生息が確認されました。しかし、奥会津地域では今のところ只見町でしか見つかっていない上、町内でも生息場所は数ヶ所に限られています。また、タガメはどちらかと言えば平地の昆虫で、山間地域での生息は珍しく、貴重な存在です。

タガメは餌に多くの水生生物を必要とするため、その存在は、只見の水辺環境の豊かさを象徴していると言えるでしょう。

〈参考〉太田祥作(2023)只見町でタガメの棲息を確認。ふくしまの虫, 40:14-15.

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話0241-72-8355）までお問い合わせください。

企画展「誕生から10年。只見ユネスコエコパークの
ここまです振り返り、これからを考える」

会期：2024年4月27日(土)～9月1日(日)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー